

# 高等学校 国語科の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- 古典の言葉と現代の言葉との関係を意識したり、古典の書き手や文章中の人々と、現代の人々との共通点や相違点を考えたりすることができる。

思考力、判断力の育成

- 科目 国語総合
- 学年 第1学年
- 単元名 伊勢物語 芥川
- 本時の目標 芥川の段を現代の物語に書き換えることにより、文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことができる。
- 学習の流れ (3時間目/全4時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 前時までの学習内容の振り返り。 ○ 前時までの学習内容を確認する。  2 本時の目標を確認する。 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおう。	・芥川の段に描かれた物語の世界、前半と後半のつながりや描かれ方の違いについて学習したことを振り返らせる。	
3 現代の物語に書き換える。 ○ 本文を音読し、前時までに読み取った内容を想起する。 ○ 本文の口語訳を参考に、現代の物語に書き換える。 ○ 男、女のいずれかの視点で、まずは前半部分を書き換える。 ○ 生徒の作品について、優れている点を評価する。 ○ 後半部分を書き換えるに当たり、どのような工夫が考えられるか、どのようなことに留意すべきかを考える。 ○ 後半部分を書き換える。	・数人を指名して音読させる。人物の心情、場面など前時までに読み取った内容を想起させる。  ・書くための時間は10分程度とし、数名に発表させる。 ・生徒の作品は投影機を用いてスクリーンに映す。 ・工夫については創作に生かすよう指示し、留意すべきことについては、数名に発表させる。不十分な点は補足する。 ・うまく書き進めることができない生徒に対しては、机間指導により助言する。	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことができる。〔読む能力〕(作品)
4 本時の学習内容の確認と次時の予告。 ○ 作品を読み返し、分かりにくい部分がないかを確認した上で提出する。	・完成しなかった場合は、次時までの課題とする。	

言語活動の充実

## 指導のポイント

### 登場人物の視点で書かせる

- 古典を現代の物語に書き換える活動を行わせるに当たっては、口語訳とそっくりにならないようにさせることが必要です。今回は、男または女のいずれかの視点で書かせることで、口語訳とそっくりにならないようにさせています。

### 工夫すべき点、留意すべき点について十分に考えさせる

- 古典を現代の物語に書き換える活動を行わせるに当たって、どのような工夫が考えられるか、どのようなことに留意すべきかを十分に考えさせることが必要です。今回は、前半部分を書いたところで一旦中断させ、考えさせる時間をとっています。

### 伊勢物語 芥川の段の本文。

昔、男ありけり。女のえ得まじかりけるを、年を経てよばひわたりけるを、からうじて盗み出でて、いと暗きに来けり。芥川といふ川を率て行きければ、草の上に置きたりける露を、……

### 板書例

**目標**  
文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおう。

- 芥川の段を現代の物語に書き換える。
- ※ 男、または女の視点で書く。
- ※ 留意すべき点。
- ・イメージをふくらませること。
- ・気になる古語の意味については、辞書で確認すること。
- ・「芥川」以外の題も考えてみる。
- ・擬音語、擬態語などを適宜用いること。
- ・あらすじを変えないこと。

### 新学習指導要領では

#### 指導事項を言語活動例を通して指導することを一層明確に

- 今回の改訂では、各科目及び領域の内容の(1)に指導事項を示すとともに、これまでは内容の取扱いに示していた言語活動例を内容の(2)に位置付け、再構成しています。これは、内容の指導に当たって、(1)に示す指導事項を(2)に示す言語活動例を通して指導することを一層明確にするとともに、各教科・科目等における言語活動の充実に資するためです。
- 本時の学習活動3では、古典を現代の物語に書き換える言語活動を行います。人物、情景などについてのイメージを具体的にもったり、人間、社会、自然などに対する書き手や文章中の人物の考えや感情を想像したりすることで、文章の内容や表現を一層深くとらえることができるようになります。

# 高等学校 地理歴史科の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- 田沼意次の政治の複数の歴史的解釈が、どのような論理で成り立っているのか、資料をもとに筋道立てて説明することができる。

思考力、表現力の育成

- 科目 日本史B
- 学年 第2学年
- 単元名 幕政の改革～田沼時代
- 本時の目標
  - 田沼意次という人物について、どのような歴史的事象にかかわる解釈に基づいて評価されているかに気付くことができる。
  - 田沼意次の評価の理由を具体的な根拠をあげて、論理的に説明することができる。
- 学習の流れ（4時間目／全6時間）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
<p>1 既習事項を振り返る。</p> <p>○田沼意次はどんな人ですか？</p> <p>2 本時の目標を確認する。</p> <p>○川柳「役人の子はにぎにぎをよくおぼえ」は何を表現しているのかを文章で表現する。</p> <p>○株仲間・専売制の奨励は田沼時代だけの政策ですか？</p> <p>○吉宗からの継続した政策にも関わらず、なぜ田沼意次の時代だけこのような評価が行われるのでしょうか？</p> <p>3 歴史解釈の違いを考察する。</p> <p>○大正時代や昭和20年代の教科書にどのように書かれていたのか、気付きをあげてみましょう。</p> <p>○大正・昭和の教科書と比べて、今の教科書の違いは何か、気付きをあげてみましょう。</p> <p>○辻善之助東京大学史料編纂所初代所長が著した『田沼時代』を紹介する。</p> <p>4 本時のまとめ</p> <p>○田沼意次という人物の評価にはどのような評価があり、なぜ大きく分かれるのか、根拠とともに説明しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校・中学校の歴史の授業を想起させる。 賄賂政治のイメージや貿易に力を入れた人など</li> <li>・「にぎにぎ」に注目させ、役人は誰から、なぜ賄賂をおくられたのかを理解できるようにする。 商業政策として株仲間の公認、専売制度の拡張のために特定商人に座を組織させたため、幕府役人の間に賄賂・縁故の人事が横行</li> <li>・享保の改革を行った徳川吉宗の政策を継承していることに気付かせる。</li> <li>・理由をワークシートに各自文章で予想させる。</li> <li>・このような悪評が田沼時代の次の寛政の改革の時期に定着したのは、改革政治を、前の時代を批判することで展開したことに気付かせる。</li> <li>・江戸時代の中で「田沼時代」という政治家の名前がついている時代は他にないことと関連付けて説明する。</li> <li>・大正・昭和20年代の教科書は田沼を金権政治家としての記述であるのに対して、今の教科書は「意次の政策は、商人の力を利用しながら、幕府財政を思い切って改善しようとするものであり、これに刺激を受けて、民間の学問・文化・芸術が多様な発展をとげた。」と、異なることに気付かせる。</li> <li>・田沼は初めての定量の計数銀貨の铸造、長崎貿易の政策を転換し金銀の輸入を進める等の政策を行ったことを説明し、田沼政治を発想の転換をした積極的な政策と評価した歴史学者の見方を説明する。</li> <li>・二極化する人物評価を対比させ、その根拠とともに表現できるように、表現方法の確認を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大正・昭和・現在の教科書記述の具体的な違いが指摘でき、現在の教科書記述が歴史学者の見方を反映していることが説明できる。</li> </ul> <p>〔資料活用の技能〕 〔思考・判断・表現〕 (ワークシートの記述)</p>

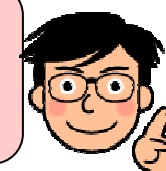
言語活動の充実

## 指導のポイント

### 教科書の記述を比較する学習過程を組み込み、歴史的事象と解釈を区別させる

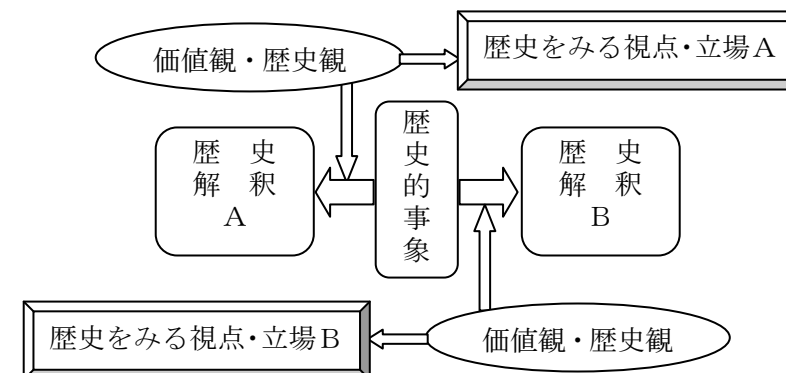
- 歴史は過去のこと、歴史は変わらないと思っいる生徒が多いですが、同じ歴史的事象でも、歴史学者の立場や考え方によって解釈が異なることを理解させ、教科書記述を歴史的事象と解釈に区別する方法を身に付けさせるようにします。

教科書の記述を比較して、歴史的事象（歴史事実）と解釈を区別してみよう。



### 歴史学者が、歴史的事象をどのような立場や考え方によって解釈し評価しているかについて考察させ、ある人物やある政策の評価が分かれたり一定の期間を経て転換したりするのはなぜかについて自分の考えを説明させる

- 田沼意次という一人の人物に限って考えても、歴史的な解釈が大きく二分されます。その評価の根拠となる立場や考え方（価値観、歴史観）のみならず、その時代背景が影響して歴史的事象の持つ意味が変化することを理解することで、「現代社会をどのように見るか」の視点にもなります。同じ社会的事象を見ても、その事象の持つ意味が異なれば見えてくるものが違うことを、日本史の授業で具体的に展開し、生徒自身が理解できたことを文章で説明できるような指導を行います。



### 新学習指導要領では

#### 諸資料を活用して歴史を考察し表現する学習を重視（日本史B）

- 今回の改訂の要点である歴史を考察し表現する活動の重視は、内容「(1) 原始・古代の日本と東アジア ア 歴史と資料」, 「(2) 中世の日本と東アジア ア 歴史の解釈」, 「(3) 近世の日本と世界 ア 歴史の説明」, 「(6) 現代日本の政治と国際社会 ウ 歴史の叙述」の一連の学習を、通史的な学習内容とかわらせて計画的に実施することで、歴史学習にかかわる技能を段階的に高めることを意図しています。
- 「(3) 近世の日本と世界 ア 歴史の説明」では、歴史的な事象については立場や見方の違いによって複数の歴史的解釈が成り立つことに気付かせ、それぞれの解釈を成り立たせる根拠や論理を踏まえ、筋道立てて考えを説明する力を身に付けさせることとしています。
- 今回の改訂で地理歴史科では、思考力・判断力・表現力等を育成する観点から、各科目において、様々な資料を活用した学習を一層重視して内容の構成が図られています。



設定した言語活動を通して育てたい力

- ある出来事の背景や因果関係を明らかにし、自分の考えをまとめ、 論述することができる。

思考力、表現力の育成

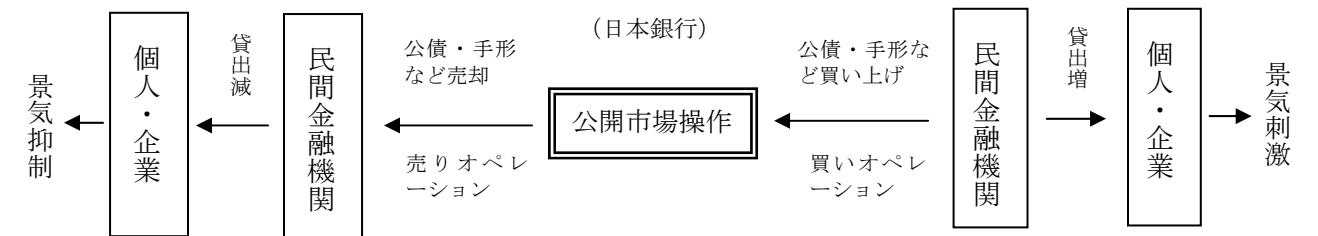
- 科目 現代社会
- 学年 第1学年
- 単元名 現代の経済社会と経済活動の在り方
- 本時の目標 日本銀行の役割を理解する。
- 学習の流れ（1時間目／全7時間）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 〔評価方法〕
1 日本銀行のしくみと役割を説明する。 発問：日本銀行はどのような仕事をしているのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレットなどの視聴覚教材を用いる。また、理解を深めるために、自分たちの生活に身近な話題を取り上げるようにする。</li> </ul>	日本銀行の業務と自分の生活とのかかわりに興味・関心を持ち、主体的に考えようとしている。 〔関心・意欲・態度〕（発表）
2 景気変動と通貨量の関係について説明する。 ○ 好況期と不況期における生産量、物価、雇用形態と通貨量 <span style="font-size: small;">の関係を説明する。</span>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までに学んだ貨幣の役割、信用創造、景気変動の構造を思い出させながら説明する。</li> </ul>	金融政策を多面的に考察し、モデル図を作成することができる。 〔思考・判断・表現〕（ワークシート）
3 景気の4局面のうち、好況期、不況期において実施する金融政策（公開市場操作、公定歩合操作、預金準備率操作）のモデル図をワークシートに作成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5人ずつのグループを編成する。</li> <li>・ワークシートに実施前と実施後の社会状況（通貨量、雇用、物価等）を記入する欄を設ける。</li> <li>・矢印の方向だけでなく、長さや太さにも根拠をもつよう指導する。</li> </ul>	自らの知識・技能を活用し、適切な構成展開のレポートを作成することができる。〔思考・判断・表現〕（レポート）
4 発表 ○ グループで話し合った内容を代表者が発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠を示すとともに、話し合いの過程も説明するよう指導する。</li> </ul>	
5 振り返り ○ 他グループの発表内容や質問内容を基に、自分の発表内容を再度考察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人学習に戻す。</li> <li>・自分の考えと他人の考え及び発表後の自分の考えを比較検討させる。</li> </ul>	
6 まとめ ○ 日本銀行は貨幣価値を維持し物価を安定させるために金融政策を行い、社会を安定化させていることを説明する。		
7 レポート作成 ○ 本時の学習で学んだことや疑問に思ったこと、次時までの課題をレポートにまとめる。		

## 指導のポイント

### モデル図を作成させる

- モデル図を作成するには、「何を書くのか、書かないのか」、「どのように書くのか」を総合的に判断しなくてはならず、持っている知識や概念を総動員する必要があります。また、イラストや表を挿入する場合は、全体の構成やレイアウトを考慮しなくてはなりません。  
生徒は、習得した知識を大いに活用して表現する力を伸ばすことになります。



### 分かりやすいモデル図作成のための工夫を行う

- 作成したモデル図を他人が見たとき、分かりやすいものでなければなりません。そのためには、まず、使用する用語が分かりやすいものでなければなりません。金融をはじめとする多くの経済用語は難解なものが多いため、分かりやすくするためには、**日常生活で使用することばに言い変えたり、具体例を示す必要があります。**  
さらに、**背景やスペースなど、デザインを工夫することにより**、特に強調したい部分を明確にすることも必要です。

### 新学習指導要領では

#### 社会の在り方を考察する基盤として「幸福、正義、公正など」を位置付け

- 現代社会では、大項目（1）で、**この社会の在り方を考察する基盤として「幸福、正義、公正」などを理解させ**、これを基に、大項目（2）において、現代社会について倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会など多様な角度から理解させるとともに、自己とのかかわりに着目させて、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察させます。さらに最後の大項目（3）では、この科目のまとめとしてこれまでの学習成果を活用して課題を探究させ、人間としての在り方・生き方について考察を深めさせることになっています。
- 「言語活動」が全教科で必要になったことから、知識が拡散する一問一答的な学習ではなく、拡散した知識をあるモデル図や視点に集約させるような工夫が必要です。

# 高等学校 数学科 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- 他者の解答の数学的推論の論拠を議論し、根拠に基づいた一般性のある考えや論証を構成することができる。
- 推論を言葉で表現することで、正しい数学的推論によって得られた結果に基づいて合理的に判断することができる。

思考力、表現力、判断力の育成

<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 科目 数学II</li> <li>□ 学年 第2学年</li> <li>□ 単元名 いろいろな式</li> <li>□ 本時の目標 不等式の証明を通じて数学の論証についての理解を深め、具体的な問題解決に不等式を活用して、筋道を立てた論証をすることができる。</li> <li>□ 学習の流れ (14時間目/全14時間)</li> </ul>		
学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 他者の解答について納得できるかどうかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の課題の解答例を1つ取り上げて、解答において納得のできない部分をワークシートに書き込ませる。</li> <li>・既習事項(等号成立・必要十分条件)について留意する。</li> </ul>	
2 解答において納得できない部分はなぜかをグループで討議する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理の展開についても注意を払うように指示する。</li> <li>・お互いに意見を述べる際には、根拠を明確にして説明するように促す。</li> <li>・論理の筋道が正しいかどうか、推論の必要十分性についても吟味するように促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不等式の証明を通じて数学の論証についての理解を深め、具体的な問題解決に不等式を活用して、筋道を立てた論証をすることができる。〔数学的な見方や考え方〕(行動観察・発言、ワークシートの記述)</li> </ul>
3 解答を修正する。 ○ 個人で考える。 ○ 修正した解答をグループ内で討議する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修正する際に、根拠を記述させる。</li> <li>・他者の意見から修正すべき部分の追加を記入させる。</li> </ul>	
4 修正した解答を3グループの代表者が説明する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他のグループにも参考となる考えを発表させる。</li> <li>ICT(書画カメラ)を活用してポイントを明確にする。</li> </ul>	
5 本時のまとめと次時の予告 ○ 本時の学習を振り返り、次時までの課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〔解答〕を作成する際に、他者を説得できるような根拠に基づいた明確な論理を展開し、言葉の説明文を記述する。</li> <li>・(課題)傍用問題集を用いて演習を行い、学習内容を定着させる。</li> </ul>	

言語活動の充実

## 指導のポイント

### 論理を明確に表現するためワークシートを工夫する

■ 問題演習においては正解を提示しがちですが、生徒が自分の作成した解答を客観的に捉え直すことができるように、生徒の解答例を取り上げたり、思考過程を記入させるなど、ワークシートを工夫してみましょう。

いろいろな式(不等式の証明とその応用) 論理を明確にしよう

次に〔問題〕と、その〔解答例〕がある。〔解答例〕の中で自分が納得できない部分をさがしてみよう。また、どのように修正すればよいか。

【問題】(1)  $a, b, c, x, y, z$  は実数とする。次の不等式を証明せよ。  
 $(a^2 + b^2 + c^2)(x^2 + y^2 + z^2) \geq (ax + by + cz)^2$   
 (2) (1)の不等式を用いて次の命題が常に成り立つような正の実数  $k$  の最小値を求めよ。  
 命題:  $x^2 + y^2 + z^2 \leq k$  ならば  $x + y + z \leq k$

【解答例】

(1)  $(a^2 + b^2 + c^2)(x^2 + y^2 + z^2) - (ax + by + cz)^2$   
 $= (ay - bx)^2 + (bz - cy)^2 + (cx - az)^2$   
 $(ay - bx)^2 \geq 0, (bz - cy)^2 \geq 0, (cx - az)^2 \geq 0$   
 であるから  
 $(ay - bx)^2 + (bz - cy)^2 + (cx - az)^2 \geq 0$   
 よって  $(a^2 + b^2 + c^2)(x^2 + y^2 + z^2) \geq (ax + by + cz)^2$

(2) (1)において、 $a = b = c = 1$ を代入すると、  
 $3(x^2 + y^2 + z^2) \geq (x + y + z)^2$   
 が成り立つ。 $x^2 + y^2 + z^2 \leq k$ であるから、  
 $(x + y + z)^2 \leq 3k$   
 すなわち、 $x + y + z \leq \sqrt{3k}$   
 よって、 $\sqrt{3k} = k$   
 $3k = k^2$   
 $k$ は正の数であるから  $k = 3$  答  $k = 3$

【納得できない部分】(理由も記入する)

【修正したもの】(根拠も記入する)

例: 等号が成り立つのはどのようなときかをきちんと書く必要がある。

### 活用において体系的な思考を深める振り返りを取り入れる

■ 既習事項の振り返りをさせることによって、根拠が何であるかを明確にでき、それを記述させることによって、推論が正しいかどうか判断できるようになります。  
 また、このような取組みによってグループ内で他者を説得し、説明し合う活動も充実します。

### 新学習指導要領では「数学的活動」で、自らの考えを根拠を明らかにして説明することを重視

- 今回の改訂で、数学的活動を一層重視し、「自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにして説明したり、議論したりすること。」として数学的活動を通して思考力・表現力を目指しています。
- 本事例では、「問題の解決で、誤った解答に対しては、どこが誤りか、誤っていると言える理由は何か、どこをどのように修正すれば正答になるかなどを生徒に考えさせ説明させる。」ことによって、自ら推測した考えを数学的に立証し、他者と自己の論拠・推論とを比較し、論証の内容・表現・質を相互に評価し、より一般性のある考えや論証を構成することができるようになります。



# 高等学校 理科 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

原核生物と真核生物の共通点と相違点に着目して、根拠に基づいて仮説を設定したり、結果を考察したりして、それを表現することができる。

科学的な思考力、判断力・表現力の育成

科目 生物基礎

学年 第1学年

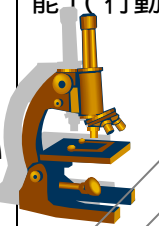
単元名 生物の共通性と多様性

本時の目標 原核生物と真核生物の観察を行い、その姿は多様であっても、どちらも細胞が基本単位であることを理解する。また、それぞれの生物の特徴を比較したり、関連付けたりするなどの考察をする。

学習の流れ（3時間目 / 全10時間）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 前時の学習内容をミニテストで簡単に復習する。	・原核生物(細胞)と真核生物(細胞)の特徴を復習させる。 ・観察レポート用紙の配布	
2 本時の学習目的を理解し、仮説を立てる。	・本観察の目的をしっかりとらせた上で、観察する細胞の大きさとその順序やその他の特徴について根拠に基づき適切な表現で仮説を立てさせる。	
3 グループごとに、次のA～Dを分担して観察する。 A 口腔内上皮細胞と口内細菌 B チョウチンゴケの葉状体 C ネンジュモ D ヨーグルトの乳酸菌	・観察時間を十分にとるため、スライドを活用して観察方法を簡潔に説明する。 ・原核生物(細胞): 口腔内上皮細胞, チョウチンゴケ 真核生物(細胞): 口内細菌, ネンジュモ, 乳酸菌であることは伝える。	・顕微鏡観察を正しく行っている。 〔観察・実験の技能〕(行動観察)
4 特徴を捉えた簡単なスケッチを行い、細胞全体や主な細胞小器官の大きさをマイクロメーターで測り、記録する。その他の気づきもメモにとる。	・中学校で学習した細胞小器官の存在や大きさの違い等に注目できるように誘導する。	
5 グループ内で相互観察を行い、他の生徒の観察結果を共有し、観察した生物の共通点と相違点について話し合い、観察レポートに自分の考えを記入する。	・ネンジュモの1個の細胞とチョウチンゴケの1個の葉緑体の大きさがほぼ等しいなど、後の単元の内容(共生説)に関連する気付きがあるグループを確認しておく。 ・グループ内での協議を踏まえた上で、自分の考えを導き出すよう促す。	・原核生物と真核生物の共通点と相違点を自分の考えでまとめている。 〔思考・判断・表現〕(観察レポート)
6 本時のまとめと次時の予告		

比較と関連付けの一例



## 指導のポイント

### 観察、実験の目的を明確にし、根拠に基づいた仮説を立てさせる

高等学校理科の目標には、「観察、実験など・・・」の前に「目的意識をもって」が新たに加わりました。学習活動2のように、観察、実験の目的を一人一人の生徒に明確に把握させた上で、根拠に基づき、論理的で適切な表現による仮説を立てさせましょう。

目的を述べ、プリントに示した手順にしたがって観察、実験を行わせる。

改善

演示実験や映像等を用いて、観察、実験の目的を生徒一人一人に把握させ、根拠に基づき、論理的で適切な表現による仮説を立てさせ、観察、実験を行わせる。

仮説を立てにくい観察、実験の場合は、**観察、実験の方法**を考え、表現させる、なども考えられます。

### 観察、実験の結果についてグループで協議し、それを踏まえてレポートを作成

理科において言語活動の充実を図るためには、「比較や分類、関連付けといった考えるための技法、帰納的な考え方や演繹的な考え方などを活用して説明する」などの活動が重要です。

学習活動5のように、一人一人の考えを深めるために**グループで話し合った後、自分の言葉で、自らの考えを導き出す学習活動**を充実させましょう。また、話し合った内容を整理して**人に分かるように説明する**などの表現させる機会を設けることも重要です。

観察、実験の結果を各自でワークシート等に記入するのみ。

改善

各自で記入した後、グループで話し合い、整理したり発表したりする。

結果  
考察

ホワイトボードを活用して、グループで話し合ったことを整理し、プレゼンテーションをさせるなどの工夫

発表の場では、聞く側に質問や意見を言わせたり、発表者に質問に対して答えさせたりするなどの活動も取り入れましょう。

### 新学習指導要領では

#### 観察、実験などの結果を分析し解釈して自らの考えを導き出し、それらを表現するなどの学習活動を充実

年間の指導計画を見通して、観察や実験などを十分にを行い、生徒が結果を分析して解釈するための機会やそれらを行うための時間を確保しましょう。

観察、実験などの結果を分析し解釈して自らの考えを導き出す学習活動においては、**生徒に観察や実験の目的を十分理解**させ、生徒が主体的に取り組むようにしましょう。

また、科学的な思考力や判断力を育成するため、生徒一人一人にじっくり考えさせるとともに、**グループで協議**させた後、自らの考えをまとめさせましょう。

自らの考えを表現する学習活動においては、特に、初期の段階では思考を促し表現させるような指導が大切です。また、**口頭での発表、プレゼンテーション、報告書の作成**など、多様な表現活動の機会を設定することが大切です。報告書を作成させる際には、その見通しをもたせるため、例えば、前年度の報告書などを参考として提示し、活用させましょう。

# 高等学校 保健体育科の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- 提供されたデータや作戦、戦術を基に分析・評価したことを、ことばや文章で仲間に説明することができる。

思考力、表現力の育成

- 科目 体育
- 学年 第2学年
- 単元名 球技 ゴール型「ハンドボール」
- 本時の目標 班の課題に応じた練習や相手の戦術に応じた作戦を設定できるようにする。(思考・判断)
- 学習の流れ (9時間目/全12時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 準備・補強運動、挨拶 2 本時のねらいを確認する。	班の課題や戦術に応じた練習をしよう。	
3 班ノートで本時の班のねらいを確認する。	・前回までのゲームのデータ集計票を配布し、それを基に練習メニューを話し合わせる。 ・攻撃の幅を広げるための話し合いになるように、ポスト攻撃、速攻、サイド攻撃など、これまでの得点パターンの確認をさせる。	・班の課題解決に有効な練習方法を見付けている。 〔思考・判断〕 (班ノート)
4 班別練習を行う。 ・ボール操作のウォーミングアップ練習 ・フォーメーションやセットプレーなど役割に応じた動きを確認する。	・個人技能(ドリブル、パス、シュート)の練習を中心に行わせる。 ・攻撃方法についてのポイントを確認させる。 ・改善点等を自由に発言し、班ノートにメモをさせる。その際、全員が順番にコート外から見る機会をつくり、動きの確認をさせる。 ・作戦ボードを使い、ゲームをイメージさせる。 ・タイミングをつかむため、ゆっくり動き確認させる。 ・相手の班を分析するポイントをアドバイスする。	・対戦相手に応じた作戦を選択している。 〔思考・判断〕 (班ノート)
5 ゲーム(7対7, ハーフ) ①ゲーム(6分) ②審判, 得点係, 集計係 ③話し合い(or 試合の観戦)のローテーションで行う。	・集計係はシュート内容、攻撃方法の特徴を集計用紙にメモさせる。 ・ゲームから感じ取ったことを表現し、考えを伝え合い、他者の思いを受けとめるようアドバイスする。	
6 整理運動・片付け 7 本時のまとめを行う ・よかった点と課題を確認し、班ノートに記録する。 8 次時の説明	・班で交流し、次時に向けて話し合わせる。 ・次時は、攻撃に対応した防御方法を学ぶことを確認させる。	

言語活動の充実

## 指導のポイント

### データ集計票、班ノートを活用して分析・評価し考えを深めさせる

- ゲームのデータや班ノートなどを活用し、話し合いの方向性を持たせましょう。
- 授業はじめに前時の反省点や本時の対戦相手のデータを確認し、**班ごとに目標を設定し、練習メニューや作戦、戦術等を決定**させましょう。
- 練習中の気づきや試合後に話し合った内容については**記録を残し、その後の活動に活用**させましょう。

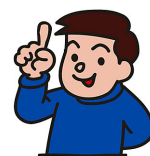
#### 集計内容

##### シュート内容

- ①得点者と種類
- ②シュート位置、角度

##### 攻撃方法

- ①ポスト攻撃②速攻③サイド攻撃④その他( )



工夫

今日の対戦相手は〇班です。**データ集計票や班ノートを活用し、班の課題、相手の班の特徴を分析し**、今日のねらいと練習内容について話し合ってみよう!

### 思ったことや考えたこと、イメージや感覚を言語化、文章化して整理して説明させる

- うまくいった感覚(ポイント)や感じ取ったことを**自分の言葉で表現**させましょう(=自分の感覚とことばのイメージを一致させる)。
- 図を用いたり、**比喩表現や擬態語、擬音語など動きをイメージさせる表現方法の工夫**をさせましょう。
- 作戦などの話し合いの場面で、**合意を形成するための適切なかわり方**を見付けさせましょう。



- ポイント・・・どのタイミングどのように
- 比喩表現・・・～みたいに、～な感じで
- 擬態語・・・「トーン・トトツ」
- 擬音語・・・「シュシュ」

### ※ 体を動かす機会を適切(十分)に確保すること

- 指導内容の精選を図り、話し合いのテーマや学習の段階的な課題を明確にする。
- 具体的にアドバイスし、個に応じた運動量を最大限確保する。

### 新学習指導要領では

筋道を立てて作戦や課題解決の方法について話し合いをする機会を設け、仲間に説明するなど、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりする活動を重視

- 今回の改訂では、筋道を立てて練習や作戦について話し合う活動などを通して、**コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成**を促し、**主体的な学習活動**を充実させることが示されています。
- 本事例では、データを基に、班の課題を見つけ、**解決の方法を考え、話し合ったり、記録をまとめ**させます。また、練習や試合後に**話し合いや教え合い**などの時間を設けることで、相手の戦術に応じた作戦や有効な練習方法の選択など班の中で指摘し合うことで、**自分の考えを表現する力**を育成することができます。



# 高等学校 芸術科(音楽)の事例

- 設定した言語活動を通して育てたい力
- 音楽によって喚起されたイメージや感情について、根拠をもって述べることができる。
  - 音楽に関する言葉を適切に用いて伝えたり批評したりして、音楽のよさや美しさなどの味わいを深めることができる。

思考力、判断力の育成

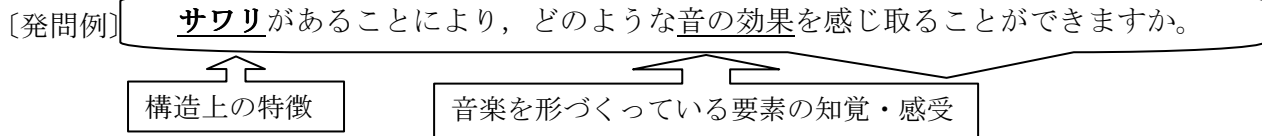
- 科目 音楽 I
- 学年 第 1 学年
- 題材名 三味線の魅力～勘所と音色を掴む
- 本時の目標 三味線固有の音色の特徴をとらえて鑑賞し、演奏表現に生かす。
- 学習の流れ (4 時間目 / 全 8 時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 あいさつ 2 本時の目標の把握 3 前時の復習	○姿勢を正し、心を落ち着け、座礼をさせる。 ○本時の目標と流れを板書しておく。 ○基本的事項と奏法を確認して、既習曲を弾かせる。	
4 音色の特徴の理解 I ○ 三味線の発音原理や構造上の特徴を客観的な理由としてあげながら、それらと音色や響きの特徴を関連付けて、言葉で表現し、グループで論じ合う。	○発音原理では、撥弦楽器であるが、一種の打楽器的要素をもっていることに気付かせる。 ○構造上の特徴では、三線から三味線になった歴史的背景にも触れ、楽器の材質(棹・糸・バチ・皮)や奏法などから楽器の共通点や相違点を考えさせる。 ○生徒への発問は、学習の対象となる要素(音色)に焦点を当て、焦点がぶれないよう留意する。 ・サワリによる音の効果 ・バチの材質(象牙と木)による音色の違い ・空洞の胴、胴の内側に施した彫と音色との関連	・音色に着目して楽器の構造や奏法による響きの変化を知覚し、それらの働きによって生み出される独特の雰囲気などを感じ取りながら、音色について根拠をもって批評し、三味線の音の多様性をとらえて鑑賞している。 〔鑑賞の能力〕(学習カード)
5 音色の特徴の理解 II ○ 音色や響きの変化について比較聴取し、聴き取ったことを学習カードに文字や絵で記入する。 ○ 三味線固有の音色の特徴の感じ取りを深めたことについて、言葉で表現し、他者に伝える。	○比較聴取する楽器は、「撥弦楽器」の中から選定する。 ○比較聴取のポイントを、次の2点に絞る。 ・音色に焦点を当て響きの変化を知覚させること ・音色に関連する右手の奏法を見取らせること ○聴取したことや感受したことを、文字や絵などを使って、できるだけ多く学習カードにメモさせる。 ○学習カードの記入内容を整理させ、それらを根拠とし、音楽に関する言葉を適切に用いて言葉で表現させる。	・音色に着目して響きの変化を知覚し、それらの働きによって生み出される音色、音の響きや表情などを感じ取りながら音楽表現を工夫し、表現意図をもって楽器にふさわしい音色を追求している。〔音楽表現の創意工夫〕(学習カード)
6 奏法の工夫 ○ 音色や響きについて表現意図を持ち、楽器にふさわしい音色を追求する。	○鑑賞で掴んだことを生かすよう指示し、試行錯誤しながら練習させる。 ○二人組で協力し、互いに聴きあい、確認しあいながら、音色や響きを工夫させる。	
7 掴んだことの確認と共有	○「本時の目標」を振り返らせ、感じ取ったこと、掴んだことを発表させ、共有させる。次時の予告をする。	
8 あいさつ	○姿勢を正し、心を落ち着け、座礼をする。	

言語活動の充実

## 指導のポイント

### 対象となる音楽の要素に焦点を当て、学習の目標に迫る発問を工夫する



■ 発問は、学習のねらいに迫り、思考力を高めるために重要です。学習の目標にかかわって対象となる音楽を形づくっている要素の知覚や感受に焦点を当て、何をポイントに聴けばよいか、何について考えればよいかを明確にした発問を工夫しましょう。

### 批評するための根拠を見つけ出すため、学習カードを工夫する

■ 批評するための根拠を見つけ出し、知覚・感受したことを音楽に関する言葉を適切に用いて伝えることが大切です。そのため、思考を整理できるような学習カードを作成するとよいでしょう。  
(比較聴取における学習カードの例)

楽器名	音色	響き	右手の奏法	材質				音穴	備考
				(棹)	(バチ)	(糸)	犬皮		
三味線				黒檀 紫檀	象牙	絹糸	猫皮	なし	フレット なし
三線				黒檀 紫檀	水牛 象牙	絹糸	蛇皮	なし	フレット なし
クラシックギター								あり	フレット あり
箏				桐	象牙	絹糸	-	あり	柱あり

生徒に記入させる部分

資料として最初から印字している部分

〔留意点〕 学習カードへの記入項目が多いと、生徒の着眼点が多岐にわたり、整理しきれずに終わってしまう場合があります。学習の対象となる音楽を形づくっている要素や学習の目標から記入項目を精選して学習カードを作成し、生徒が聴取したことや感受したことを、文字や絵を使ってできるだけ多くメモさせるようにします。

### 新学習指導要領では

#### 思いや意図をもって表現したり、根拠をもって批評したりするなどの活動を重視

- 今回の改訂で、歌唱・器楽・創作・鑑賞の各指導事項の1つとして「音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して」活動を行うことが示されました。このことにより、表現したい音楽のイメージを膨らませながら曲にふさわしい表現を工夫したり、楽曲全体の構成をとらえて鑑賞したりなどする力の育成を目指しています。
- 楽曲や演奏について、生徒が音楽に関する言葉を適切に用いて伝えたり、生徒同士が根拠をもって批評したりする活動を取り入れることは、音楽のよさや美しさなどの味わいを深めることとなります。  
このように、生徒自らが音楽のよさや美しさなどを感じ取りながら思考・判断する一連の過程を大切にす  
る指導が音楽に対する感性を高めることにつながります。

# 高等学校 芸術科(美術)の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

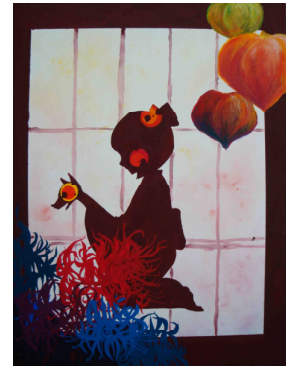
○ 根拠をもって批評し合い、自己の表現したいことが的確に表現できるように構想を深めることができる。

思考力、表現力の育成

- 科目 美術 I
- 学年 第1学年
- 題材名 「日本の秋」色彩構成
- 本時の目標 自然に目を向け季節を感じ取りながら色彩感覚や構成力を総合的に働かせ、イメージに合った構成、形、色、適切な表現技法などを選択し、構想を練ることができる。
- 学習の流れ (5・6時間目/全16時間)

言語活動の充実

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 前時の振り返り		
2 課題説明		
3 生徒作品を鑑賞し、「日本の秋」に対する各々のイメージの違いや表現の違いについて考える。	・色、構成美の要素、様々な技法の実技演習、日本的な表現技法も取り入れた理由等、前時の振り返りをさせる。 ・季節を感じる自然物や日本の行事など分類して発表させる。	
4 アイデアスケッチ	・自他の見解や感じ方の相違に気づき、作品のよさや美しさを尊重し合い批評し合う中で、互いの作品に理解を深め、他者のよい部分を参考にしたり、自分の表現の中に取り入れたりさせる。 ・表現形式の特性、形や色彩などの造形要素の働きを具体的に提示しながら、色彩の配色を理論的に学び、実際に配色をし、色彩を客観的、分析的にとらえたり、総合的にとらえ直したりしながら構想を深めさせる。	・色彩や形体、材質等の要素の働きを理解し、美的秩序や構成要素を感じ取り、自己の表現したいことを的確に表現できるよう構想を練っている。 〔創造的な技能〕 (発言、行動観察、ワークシートの記述)
5 お互いのアイデアスケッチを発表し合う	・設定の根拠を明らかにさせながら、アイデアスケッチをさせる。 ・参考になるアイデアスケッチを何点か指名し、発表させる。	
6 本時のまとめと次時の予告	・具体的にどこがどのように参考になるか、交換させる。 ・次週、必要な資料等を確認させる。	

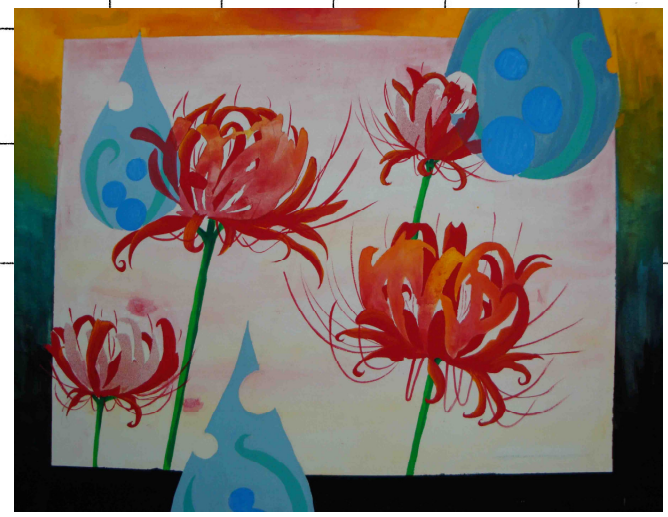


## 指導のポイント

### イメージを明確にするために表などを活用させる

■ イメージしたものを的確に表現するためには、画面構成や色彩計画、構成要素の形などについての知識と表現するための技能を身に付けなければなりません。中学校美術科での学習を基礎にして、構成・形・色彩・技法などを言葉で整理し、表や図に分かりやすくまとめさせましょう。

「日本の秋」でイメージする構成要素		「日本の秋」でイメージする色		イメージ通りに表現するための技法		アイデアスケッチ (色彩計画・技法なども提示)
植物	設定理由	果物	設定理由	行事	設定理由	



### 互いに批評し合う機会を設けて表現の構想を練らせる

■ 表現形式の特性、形や色彩などの造形要素の働きを深く考えさせ、意図に応じた材料や用具の特性を生かした創造的な表現の構想を練るようになるためには、互いに批評し合う活動を取り入れながら授業を進めていくことが大切です。

### 新学習指導要領では 作品について互いに批評し合う活動を充実

- 今回の改訂では、互いに批評し合う活動を鑑賞指導に取り入れることによって、自分の考えになかったものを受け入れて自らの考えに生かすことにつながるようになっています。
- 本事例では、作品について互いに批評し合うことで、他者の意見を取り入れながら自分の考えを整理し、構成、形、色、技法を総合的に結びつけながら表現できるようになることを目指しています。



# 高等学校 芸術科(書道)の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- 対象物をより細部まで深く鑑賞し、自分にはない価値、感性、表現効果を味わい、感じ取ることができる。

思考力、判断力の育成

- 科目 書道 I
- 学年 第1学年
- 題材名 漢字の書 —書風の異なる楷書を味わう—
- 本時の目標 古典の文字の表現効果を味わい、その特徴を生かした掲示物を書くことができる。
- 学習の流れ (6時間目/全6時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
1 前時に選定したお気に入りの古典臨書の学習を踏まえ、その書風を生かした掲示物を考える。 ○ 前時に記入したワークシートに基づき、古典の特徴、書風、書かれた背景、技法、用筆法などを深く理解する。	・身の回りにある掲示物を想起し、自分が選定した古典の書風に合う掲示物は何かを素早く決定させるために、掲示物の語句例を準備しておく。 ・書風が異なることによって掲示物の持つ雰囲気や表現効果が異なることを例を示して説明する。	・古典から受ける表現効果を味わい、その特徴を生かした表現の工夫ができる。〔書表現の構想と工夫〕(観察・ワークシートの記述)
2 古典の特徴や書風を生かした掲示物を各自が制作する。 ○ ワークシートの記入、整理から、自分の考えをまとめる。	・意図した表現効果が表れているか確認しながら制作させる。 ・考えたこと、自分としての根拠などの必要事項をワークシートに記入させる。 ・字典を活用した検字を促す。	・意図に合った表現で掲示物を作している。〔創造的な書表現の技能〕(掲示物、ワークシートの記述)
3 同じ古典を選んだ者でグループになり、各自の作品と自分の考えを説明し、互いに鑑賞を深める。 ○ 自分が書いた作品の制作意図、工夫した点を紹介する。 ○ お互いの説明から新たな見方や感じ方に気付く。	・自分にはない見方や感じ方があれば、メモをさせる。 ・グループごとでの全体発表にむけ、効果的な発表方法や作品提示方法を考えさせる。 ・ワークシートを活用して深まりのある発表、根拠を明らかにした発表の準備をさせる。	・グループ討議に積極的に参加している。〔書への関心・意欲・態度〕(行動観察、発言、ワークシートの記述)
4 グループごとに話し合ったことを全体で発表し、互いに鑑賞を深める。 ○ 各グループで発表を工夫し、掲示物の意図、表現効果を全体に説明する。	・どのような効果をねらったものかを明確にさせながら発表させる。 ・古典学習の深化と発展的な学習であることを意識させる。 ・漠然と鑑賞するのではなく、積極的に質問するようにさせる。	・掲示物の効果を自分の思いや考えをもって味わっている。〔鑑賞の能力〕(行動観察、発言、ワークシートの記述)
5 本時のまとめ ○ 学習を振り返り、感想と各自の課題を整理する。	・本時の学習目標に対する取組状況を評価する。	

言語活動の充実

## 指導のポイント

### 筋道を立てて考え、表現力を深めるためのワークシートを工夫する

- 書風の違いによって作品から受ける印象が変わることは難しく理解できても、その後に、この書風に合う掲示文は何かを考えることは難しいと考えられます。  
そこで、掲示物の文言を書風の異なる古典で書き比較させたり、生徒に特定の古典を選定させた後、より深く鑑賞するために、書風や書法を分析的に理解させるための段階的なワークシートを作成してみましょう。

「それぞれの古典の持つ書風や味わいを生かしましょう。」



工夫

「古典の特徴を分析的に理解し、書風と掲示物の相関を、試書、比較して、より効果的な表現を発見しましょう。」

「この古典にはこの掲示文がよく似合う。」・・・

「この掲示内容はこの古典、この表現でないと効果が出ない。」・・・

※校内や地域にある掲示物を想起させ、形式や形状、色彩にまで関連付けさせると、作品制作において用具・用材を工夫するなど、生徒一人一人が個性的で創造的な学習活動として意欲を示し、鑑賞から表現、技能を高めることに繋がります。

### 効果的な発表にむけ、グループ討議と作品の提示方法を工夫させる

- 発表の方向性(内容や手順)を示したワークシートを活用してグループ討議をさせると**考えが明確になり**、発表内容が充実します。  
更に、作品の提示方法を工夫すれば、説明が分かりやすくなり、**説得力が強まります**。

各自の作品を持ち寄り、グループで話したことを発表しましょう。

工夫

ワークシートを参考に、グループで考えをまとめ、作品の提示にも工夫を凝らしながら、説得力のある発表にしましょう。

### 新学習指導要領では

#### 互いに批評し合う活動を取り入れることを重視

- 今回の改訂では、感じ取る力や思考する力を一層豊かにするために、自分の思いを語り合ったり、**自分の価値意識をもって批評したりするなどして、自分なりの意味や価値を作り出していく**ような鑑賞の指導を重視しています。
- 本事例では、「作品の制作意図と表現効果を説明し合う」活動を位置付けています。他の生徒と意見交換することで自分にはない価値、感性、表現効果に味わい、感じ取ることができるようになります。





設定した言語活動を通して育てたい力

- 学んだ表現を用いて内容を要約したり、根拠を明らかにしながら自分の意見を整理して述べるができる。

思考力、表現力の育成

- 科目 コミュニケーション英語Ⅱ
- 学年 第2学年
- 単元名 Why Don't We Ride Bikes?
- 本時の目標 自転車の歴史と自転車が私たちの生活にもたらした変化を理解するとともに、自転車のもつ可能性について考えることができる。
- 学習の流れ (2時間目/全7時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
<b>1 ミニスピーチ</b> ○ 「10キロ離れた友達の家にどうやって行くか」について、理由とともにグループ内で発表する。	・自分の意見を整理して、具体的な例を加えた理由を提示しながら、相手に分かりやすく伝える工夫をするよう、事前に指示しておく。 ・主題文→支持文の順序による英語を意識させる。	
<b>2 自転車の変化と、それによる生活の変化について内容をまとめる。</b> ○ 時系列に沿ってどのような自転車が作られたか、またそれぞれの問題点、改良点をワークシートの表に整理する。 ○ 当時の人々の生活の変化を True or False Questions を用いて理解する。	・スクリーンに、最初に開発された自転車から現在の自転車までを順を追って映し、年表に記入させることによって、視覚にも訴え、理解を促進させる。 ・数名の生徒に、内容を板書・発表させる。 ・内容についてクラス全体で協議しながら確認していく。	情報を整理しながら、内容を理解し、学んだ内容を生かして、自分の意見を表現することができる。 [外国語理解の能力・外国語表現の能力](ワークシートの記述・発言観察)
<b>3 現在の生活における自転車の利点について自分の意見をまとめ、相手に伝える。</b>	・それぞれの答えについて、文中から根拠を見つけ出すと共に、False の場合は、正しい内容に英文を書き換えさせる。 ・本時で学んだ表現を使って、自転車の効果について論理的に相手に伝える。 ・聞き手は、その内容について批判的な立場で意見を述べさせる。(ミニディベート)	
<b>4 本時のまとめと次時の予告</b>	・自転車の歴史・影響について短文で要約を書くように指示する。 ・自転車使用を促進する1分間プレゼンテーションを各自準備しておくよう指示する。	

言語活動の充実

## 指導のポイント

ワークシートは授業の羅針盤 - 考えを整理し正しく理解できるような構成にする -

例1

Lesson 2 Why Don't We Ride Bikes?  
Class No. Name

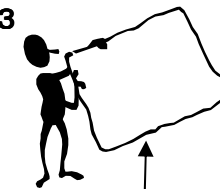
Read the text and complete the chart

Period	Kind of bikes	What's new	Problems



生徒が思考を整理し、適切に情報の取捨選択ができるように導きましょう。

例3



ワークシートが指導案の働きをします。

生徒が意見を述べる時にワークシートを使って発表できるよう構成を工夫することもできます。



例2

Worksheet

- Warm-up
- Guessing
- Mind map
- Outlining
- Vocabulary
- Listen and Summarize
- Reading Comprehension
- vocabulary building
- Further questions
- Reading Practice
- Further writing
- Research, Your opinions

生徒同士の意見交換の場を作り出す - 教師は巧みな facilitator -

- 生徒が発問に答えられない場合または生徒が自分の意見に自信がない場合

教師は視点を変えて発問し、生徒に諦めさせないでチャンスを与えることです。生徒の発言を活かしながら(たとえ正解でなくても)内容を展開していき、他の生徒にも考えさせることが大切です。生徒は正解からのみ学ぶのではなく、正解を導き出す過程の中で思考を深め学んでいくからです。

また、日本語の意味に頼らず、自分が使える英語で表現するよう励ましましょう。

その際絶対に必要なものは、間違いを恐れずに発表できるクラスの雰囲気づくりです。



新学習指導要領では

情報や考えなどを的確に理解し、適切に伝えることを重視

- 今回の改訂で、聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて話し合ったり意見の交換をしたりすることを目指す内容が盛り込まれています。情報に対して、的確に判断して必要な情報を選び出し、それをもとに自分の意見を述べる力が求められます。その際に、**必要な語彙や表現を、単に知識として蓄えるのではなく、実際に運用できることが必要です。**
- そのためにも、日頃から双方向に意見を伝え合う活動が必要になってきます。肯定・否定と立場を設定した意見発表をおこなったり、筆者の心情を代弁、或いは自分ならどうしただろうかという場面設定を行うなどして、**表現の場を多く設けることで、伝える能力の伸長に繋がります。**



# 高等学校 家庭科 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- 保育体験実習での子どもとのかかわりを通じて、子どもを育てる側からの自分の考えをまとめ、発表することができる。

思考力、表現力の育成

- 科目 家庭総合
- 学年 第1学年
- 単元名 子どもの発達と生活
- 本時の目標 保育体験実習での子どもとのかかわりを基に、幼児期における発達プロセスを考え、子どもを育てる側からの自分の考えをまとめることができる。
- 学習の流れ (4時間目/全6時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
<p>1 本時の学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保育体験実習を行った保育所の年齢別クラスの特徴について、各班のまとめを簡潔に紹介する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育体験実習の気付き・感想の中から、自分が特に取りあげたい内容について発表するよう、前時に指示しておく。</li> <li>・生徒が提出した「保育実習の記録」をまとめたワークシートを提示する。</li> </ul>	
<p>2 班内で、保育体験実習を担当した子どもとの対応で「困ったこと」「嬉しかったこと(感心したこと)」を話し合い、整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師が用意した、発表用模造紙の表に整理する。</li> <li>○ 表に整理した内容を基に、子どもを育てる側から考え、それぞれの具体的な手立てについてまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育体験実習の各クラスでの様子を写真で提示し、子どもたちの様子を思い起こさせる。</li> <li>・子どもとの対応で「困ったこと」を解決するためには「何が問題なのか?」「子どもを育てる側から自分はどうのように行動したらよいか?」また、「嬉しかったこと(感心したこと)」については「なぜ子どもはできたのだろう?」「さらに伸びるために何が必要だろうか?」を真剣に考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期における発達プロセスを考え、保育体験実習での子どもとのかかわりを基に、子どもを育てる側からの自分の考えを他者へ伝え、意見を共有し、発表することができる。[思考・判断・表現](行動観察、発言、ワークシートの記述)</li> </ul>
<p>3 各班のまとめを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1歳児のクラスを担当した班から順に、聞き手に分かりやすく発表する。</li> <li>○ 2~3人が全体で説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にはない見方、考え方があれば、記録をさせる。</li> <li>・発表後に、幼児期の発達プロセスと保育のキーワードを提示する。</li> </ul>	
<p>4 本時のまとめと次時の予告。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習を振り返り、次時までの課題を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習目標に対する取組状況を評価する。</li> </ul>	

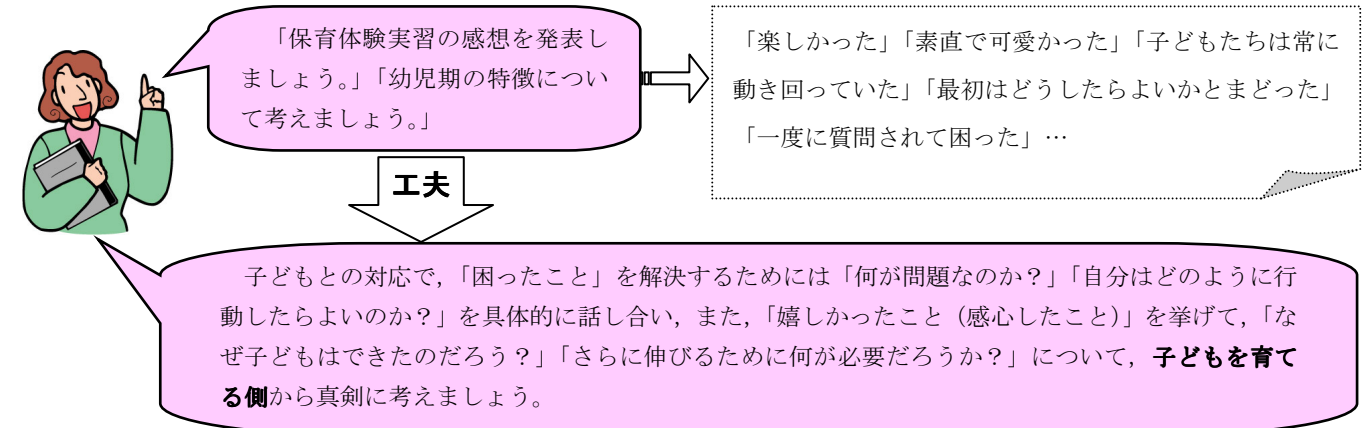
言語活動の充実

## 指導のポイント

### 題材構成の工夫をする

■ 学習活動2の「保育体験実習」などの漠然とした感想について、生徒は、「楽しかった」「可愛かった」などといった印象や自分の立場からの感想によるものとなりやすく、教師のねらいを達成できないこともあります。

そこで、教師は事前に生徒の気付きや感想を整理し、話し合い活動での問いを工夫し、「何が問題か?」「自分はどうするか?」「子どもを育てる側からどのように行動したらよいか?」という考える視点を具体的に示してみるとよいでしょう。



### 深く考え、探求する楽しさや手ごたえのあるワークシートを活用する

■ ひとりで考える場面と仲間と考える出し合い聞き合う場面の両方を螺旋系につなげ、そこで発見したり共有したりすることが次のステップで生かせるとともに、考える楽しさや手ごたえのあるワークシートを活用しましょう。

〔例〕

- 1 子どもとの対応で困ったことは何か。 → [
  - 2 子どもの気持ちを考えてみよう。 → [
  - 3 なぜ困ったのか? → [
  - 4 どのように行動したらよいか? → [
- .....

新学習指導要領では

### 実践的・体験的な活動で、人々と触れ合い、他者とのかかわることを重視

○ 今回の改訂では、「各学科に共通する各教科 家庭」の内容の取扱いに当たっては、「子どもや高齢者など様々な人々と触れ合い、他者とのかかわる力を高める活動、衣食住などの生活における様々な事象を言葉や概念などを用いて考察する活動、判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述したり適切な解決方法を探究したりする活動」などを充実すること。」が示されています。

○ 本事例では、保育体験学習での子どもとのかかわりを通じて、自分の考えをまとめ、話し合い、発表させます。他者との対話を通して考えを明確にし、自己を表現し、あるいは他者を理解し、他者と意見を共有し、互いの考えを深めたりする力を育成することができます。

# 高等学校 情報科 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- 分かりやすく情報を表現したり、正しく伝達したり、他者と共同して問題を解決することができる。

思考力、表現力の育成

- 科目 社会と情報
- 学年 第1学年
- 単元名 情報通信ネットワークとコミュニケーション
- 本時の目標 プレゼンテーションを通して、「言いたいことを伝える」ために工夫すべきこと、発表や発信では、見る側・聴く側の立場に立った考え方などに留意することができる。
- 学習の流れ (5時間目/全6時間)

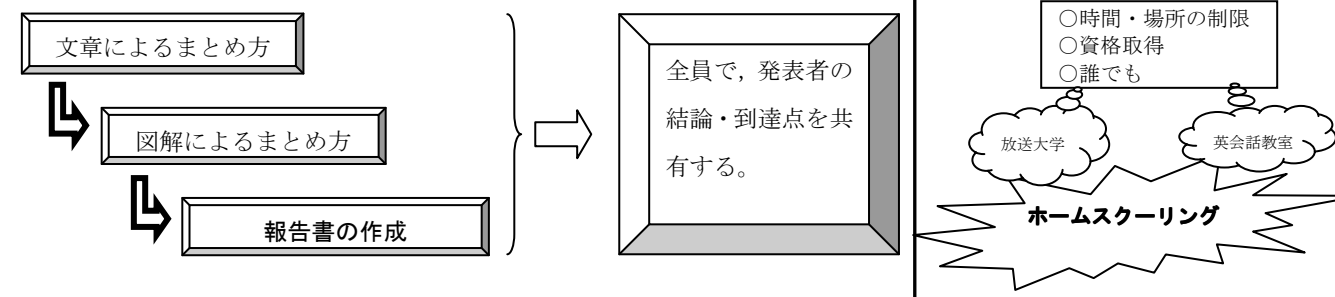
学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 各グループから選ばれた代表者(8人)が発表する。	・自分が伝えたいことを相手にきちんと伝えることが重要であることに気づかせる。	
2 発表を聞いて評価する。 ○ 代表者は、発表内容を一枚にまとめた「報告書」を提示し、全員が全体像を把握する。  ○ 代表者の発表を聞き、良かった点・修正したほうが良いと思った点等をワークシートに記入する。	・マルチメディアを活用し作成された効果的な資料とはどのようなものか、考えさせる。 ・分かりやすい情報の表現とはどのようなものか、考えさせる。  ・思い付くものをできるだけ多く記入させ、発言させる。 ・生徒を指名し答えさせる。同じ答えになった場合も必ず答えさせる。 ・人の意見は、決して批判しないことに留意させる。(相手を尊重させる) ・相手の意見は、 <u>受容的・共感的態度で「聴く」ことが重要であることに気づかせる。</u>	・積極的に発言する。 〔関心・意欲・態度〕 (観察・発問)  ・「相手の言いたいこと、伝えたいこと」を支援する傾聴ができる。 〔思考・判断・表現〕 (観察・ワークシート)
○ 発表内容を10点満点で評価する。  3 本時のまとめと次時の予告をする。 ○ 本時の学習を振り返り、次時の内容を確認する。	・評価基準が、発表者や時間の経過によって、ぶれることのない様に注意させる。  ・本時の目標に対する取組み状況の評価させる。 ・プレゼンテーションの作成においては、画像の無断使用等、知的財産権の侵害に気を付けさせる。	・積極的に発表内容を聴き、評価する。 〔関心・意欲・態度〕 (観察)

言語活動の充実

## 指導のポイント

### 思考力と発想力を鍛えるために「まとめ方」が工夫されている

- 文章にするよりも図にした方が、プレゼンテーションを行う際に説得力が増すことが多い。発表の「まとめ」では、思考力と発想力を鍛えるために、箇条書きを捨てて図解によるコミュニケーションを利用します。全体像を把握し、マルと矢印で表現することが大切です。



### 発表の仕方に工夫がある

- 自分の考えをまとめ、「言いたいことを伝える」ことができるように発表し、相互評価をします。ワークシートに、良かった点・修正したほうが良いと思った点等を記入させます。このワークシートをもとに自分の考えを筋道立てて話し、グループの中で活発に伝え合うことができます。

1 一人で	自分の考えをまとめる
2 グループで (本時)	①順番に発表する。 ②疑問点を確かめる。 ③評価し合い、修正・改善点等出し合う。 (良い点も伝える。)
3 クラスで	修正・改善し、まとめたことを発表する。
4 学年全体で	まとめたことを、学年末発表会で発表する。

### 新学習指導要領では

#### 情報教育の目標の3つの観点を引き続き重視

- ①必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力
- ②情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解
- ③社会生活の中で、情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

この3つの観点を踏まえ情報活用能力を体系的に身に付けさせることが重要!

すなわち

思考力・判断力・表現力等の育成の基盤である



# 高等学校 農業科の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- 家畜の生理・生態的な特性や飼育環境との相互関係について、科学的な見方・考え方、根拠をもった説明ができるようになる。

思考力、判断力、表現力の育成

- 科目 畜産
- 学年 第2学年
- 単元名 養豚：「ブタの品種と改良」
- 本時の目標  
全国のブランド豚について、品種の調査を行い、本校のブランド豚づくりに向けた品種の導入について考察する。
- 学習の流れ（5時間目／全6時間）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 前時の振り返り ○ 前時に調査した地方ごとのブランド豚について振り返る。	・前時に調査した全国のブランド豚について、整理を行う。(北海道, 東北, 関東, 北信越, 東海, 近畿, 中国, 四国, 九州)	
2 本時の学習内容 ○ 前時の調査結果をグループでまとめ、発表し合うことを理解する。	・本時の到達目標を生徒に明示する。	
3 調査結果の整理・発表 ○ グループごとに調査結果をまとめ、発表する。 ①どのような品種が飼育されているか。 ②どのような特徴があるか。	・グループワークの進め方及び発表の仕方を説明する。 ①各自が調べたブランド豚の品種についてグループ内で説明し合う。 ②どのような品種が飼育されているかをまとめ、その共通点を探させる。また、ブランド豚の生理・生態的な特徴など科学的な根拠を挙げながら、順序立てて説明させる。	全国のブランド豚の品種の特徴を考察し、まとめることができる。 〔思考・判断・表現〕 (行動, 発言)
4 全国のブランド豚の理解 ○ 各グループからの発表を聞き、全国のブランド豚の品種や特徴を把握する。		全国のブランド豚の特徴について、まとめた内容を適切に表現(発表)することができる。
5 本時の学習内容の振り返りと次時の学習内容の予告 〈本校のブランド豚づくりに向けた検討〉 全国のブランド豚の特徴から、本校のブランド豚づくりに向けた品種の導入について考察する。	・地域ごとに出されたブランド豚の特徴をまとめ、理解させる。	〔思考・判断・表現〕 (発表, レポート)



## 指導のポイント

### 事実や現状など実際の状況を的確につかむよう指導する

- 農業生物の生育状況や栽培(飼育)環境の状況、農業経営の実情など、事実や現状など実際の状況を正確にとらえ、客観性のある記録を行うよう指導しましょう。
- 調査や調べ学習において文献やインターネット等を活用する場合は、それらの出典を明確にさせるとともに、できるだけ多くの種類の情報を収集・比較させて情報の信頼性や信憑性を考慮させるようにしましょう。



### 物事の根拠を的確に押さえ、科学的な根拠に基づくものの見方、考え方を大切にする

- 農業生物の生育状況や栽培(飼育)環境の状況、農業経営の現状等の分析や診断などの考察を行う場合には、農業生物の生理・生態的な特性や栽培(飼育)環境との相互関係、農業技術の原理・仕組み、農業経営の診断指標等を踏まえさすなど、科学的な根拠や見通しに基づいたものの見方、考え方を指導しましょう。

### 考えを表現するとともに、考えの交流を大切にする

- 一人一人が自分の考えを表現する場を設けることにより、物事を深く、筋道を立てて考えさせるとともに、相手に分かりやすく説明するためにはどうしたらよいかを考えさせるようにしましょう。また、自分の考えと他の考えを比較・検討させることにより、新たな発見や理解につなげるようにしましょう。
- 小グループ(班)によるグループワークや話し合い等の学習形態を取り入れることにより、生徒一人一人に役割をもたせるとともに、学習過程のさまざまな場面に積極的に参加しやすいようにしましょう。
- 結論を導く際には、既習事項やそれぞれの考えを比較・検討させるなど、複数の事実から一般化を図らせるようにします。
- 小グループ(班)によるグループワークや話し合い等の指導は、4月最初の時期から計画的に行い、それらの学習活動がスムーズに行えるよう、基本的なルールや方法等が計画的に教えられることが大切です。
- 小グループ(班)のリーダーについては、個別指導やリーダー会議等を通して、グループワークの進め方や話し合いの司会などを具体的に指導していくことが大切です。



### 新学習指導要領では 学習成果を学校や地域などで発表したり、交流したりすることを重視

- 今回の改訂においては、各教科等を通じて言語活動の充実を図っており、論理的な表現力等を育成する観点から、**課題研究の成果について発表する機会を設けるようにすること**とされています。
- 学習成果を学校や地域などで発表したり、交流したりすることを通して、**課題の理解の深化を図り、新たな課題の接続を図るとともに、プレゼンテーション能力を育成**します。
- 課題研究の成果を整理し、分かりやすく発表することは、生徒自身の学習を深める上でも大変効果的です。
- 学校内外に学習成果の発表の場を設けることにより、**生徒に成就感をもたせること**ができます。

言語活動の充実

# 高等学校 工業科の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

○ 報告書の作成を通し、自己の考えをまとめ、根拠のある説明ができる。

思考力、表現力の育成

- 科目 課題研究
- 学年 第3学年
- 単元名 工業技術と「エコロジー」の関連について考える
- 本時の目標 「エコロジー」をテーマとして、課題研究に取り組むことを自覚する。私たちの生活と環境保全に関する取り組みについて調査するとともに課題や改善点を発見する。
- 学習の流れ（3時間目／全12時間）  
《前時までの活動内容》研究の進め方についてのオリエンテーションの実施。（年間計画の作成について、安全作業と工具の管理について、共同することについて、課題研究の共通テーマ「エコロジー」について）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 生徒が事前に調査した環境に関する資料等により「環境問題」、「環境対策」に分けて整理する。 ○ 個々の生徒がワークシートの表にまとめる。 ○ まとめたワークシートをグループ内(3~4人)で発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が事前に調査した資料を準備させる。</li> <li>・調査を通して最新の技術を知ることや、その構造等に関する解説を通して読解力を養う。</li> <li>・さまざまな資料より情報を取捨選択する能力(メディアリテラシー)を育む。</li> </ul> <p>【環境問題のキーワード例】地球温暖化, 酸性雨, エネルギーの枯渇, ヒートアイランド現象等</p> <p>【環境対策のキーワード例】排出量取引, 省エネ, グリーンニューディール, エコマーク, 循環型社会等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な生活やものづくりにかかわる環境問題の課題に関心を持つことができる。〔関心・意欲・態度〕(行動観察, ワークシートの記述)</li> <li>・持続可能な社会の実現を意識している。柔軟な発想ができる。共同によるまとめができる。〔思考・判断・表現〕(ワークシートの記述, グループ内の発言, 全体発表)</li> <li>・まとめたことを意見交換することで自己理解と他者理解を促進することができる。〔関心・意欲・態度〕(行動観察, ワークシートの記述)</li> </ul>
2 環境問題と工業技術との結びつきについて考える。 ○ グループ協議する。 ○ 協議内容をワークシートにまとめる。 ○ まとめた内容の要点を全体に発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを整理させ、分かりやすく表現させる。</li> <li>・グループ内の意見を大切に、共同してまとめさせる。</li> <li>・資料の作成や発表する際には、グループのまとめた意見が全体に伝わるようにする。</li> </ul>	
3 本時のまとめと次回の学習内容の確認。 ○ 本時の振り返りを行うことで、理解したことや気づき等をグループ内で共有(シェアリング)する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の取り組みの気づき、考察等をワークシートに記入する。</li> <li>・グループ内で意見を聴き合うことで相互理解を深めさせる。</li> </ul>	

言語活動の充実

## 指導のポイント

### 柔軟な発想や創造性を育むための問いかけについて工夫する

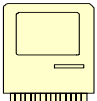

■ 教師が用意した最新の技術資料【例：Sic(シリコンカーバイト)】を読み、近未来の技術革新を創造的に予測させてください。その際、アイデアの質にこだわらず自由な発想で思いつくまま量的にアイデアをより多く出させるとともに、表現手段(絵・図・文章)の特徴を生かして、考えを整理させ、考え方を評価するようにしてください。

条件や制約を設けすぎた問いかけ

工夫

主体的な生徒の考え方を引き出す

〔例〕ワークシート1 課題解決に向けてあなたのアイデアを出してみましょう。

No.	1	2
1	アイデアスケッチ(絵・図で表現しよう) 	アイデアの概要を文書化(文で表現しよう) (例) 冷蔵庫の電気代が大幅に削減できる。
2		(例) 電気自動車のエネルギー効率がよくなり、走行距離が伸びる。

### ワークシートのフレームを工夫することで主体的に情報を発信させる

■ ワークシートを基に発表に向けて、要点をまとめるための方法に関する参考例を板書に示すことで、グループの協議内容等を整理することができます。さらに、伝え合いや聴き合う活動を促進することにも繋がります。

Step 1	Step 2	Step 3
アイデアを出し合おう	アイデアを組みませよう	グループの考えの特長を紹介しよう
<ul style="list-style-type: none"> <li>・批判せず、思いつくままに記入させる。</li> <li>・多様なアイデアを出させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通なものでまとめ、情報の収集・整理を行う。</li> <li>・問題を明確化し、共有化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題の解決策を考えさせる。</li> <li>・工夫・改善方策を発表させる。</li> </ul>

新学習指導要領では

### 成果について発表する機会を設けるようにする

- 今回の改訂では、これまで行われていた**成果発表会**や**報告書作成**などについて**これまで以上に充実**する必要があります。
- 本事例により課題研究の目標である工業に関する課題の設定を行う際に**問題点を発見する観察力**や**根拠のある研究テーマ**を設定することができます。さらに研究を進めるうえでの礎となり、最終的には**筋道のある成果発表や報告書の作成**にも繋がります。これらのことを**体験的に学習**する事で技術者としての素養を身に付けます。



# 高等学校 商業科 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

○ ビジネスの場面に応じた言葉の使い方、話の聞き方、話し方、表情などホスピタリティをもったコミュニケーションができる。

思考力、判断力、表現力の育成

- 科目 ビジネス基礎
- 学年 第1学年
- 単元名 ビジネスとコミュニケーション  
コミュニケーションの基礎
- 本時の目標 接客の場面に応じた言葉の使い方、話の聞き方、話し方、表情など基礎的なコミュニケーションの方法を身に付け、ホスピタリティをもって対応することができる。
- 学習の流れ（1時間目/全3時間）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕(評価方法)
<b>1 本時の学習内容の確認。</b> ○ 基礎的なコミュニケーションの方法について学習することを確認する。	・商業を学ぶ生徒にとって、コミュニケーションの方法を身に付けておくことが大切であることに気付かせる。	・接客する際の場面に応じた言葉の使い方、話の聞き方、話し方、表情など基礎的なコミュニケーションの方法を身に付けている。〔技能〕(行動観察、ワークシートの記述)
<b>2 自分自身が買い物をした時に販売員から言われる言葉を考える。</b>	・言われてどのように感じるかも考えさせ、発表させる。	
<b>3 接客の七大用語について考える。</b> ○ 接客の場面での言葉を考える。 ○ 言葉が持つイメージを色で考える。 ○ 適切なおじぎの角度を考える。	・お客様に対してホスピタリティをもって考えさせる。 ・場面や言葉の性質を考えさせ、色見本を提示してイメージする色を考えさせる。 ・言葉・おじぎに気持ちを込めることが大切であることをおさえる。	
<b>4 ペアで発声し合う。</b> ○ ペアで接客の七大用語を発声し合い、ホスピタリティを感じる。	・ペアになり、販売員役・お客様役の両方を体験させる。販売員役には、場面や色をイメージしながら気持ちを込めて発声させる。お客様役には、販売員の気持ちを感じ取らせる。	
<b>5 本時のまとめと次時の予告。</b> ○ 本時の学習を振り返る。	・本時の学習目標に対する取組み状況を評価する。	

言語活動の充実

## 指導のポイント

### ビジネスの場面を想定する

■ 学習活動3の接客の七大用語について考える活動では、販売実習等の体験的な学習の場面を想定させましょう。

接客の場面を想定し、場面に応じた言葉の使い方や言葉が持つイメージ、適切なおじぎを考えさせるように工夫してみましょう。



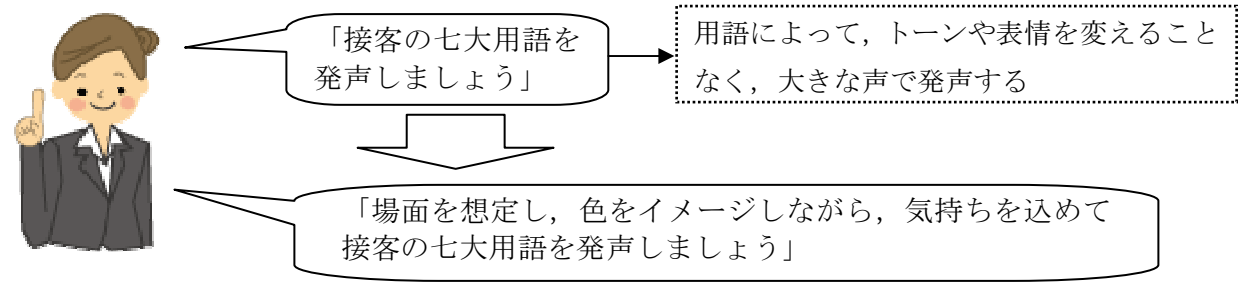
#### 接客する場面の想定

場面	用語	イメージ(色)	おじぎの角度
お客様を歓迎するとき	いらっしゃいませ	明るい感じ (赤)	30°
お客様の指示に対する返答するとき	はい、かしこまりました	信頼できて確かな感じ(緑)	15°
お客様を待たせるとき(前)	少々お待ちくださいませ	温かい感じ (黄)	15°
お客様を待たせたとき(後)	お待たせいたしました	温かい感じ (黄)	30°
お客様に迷惑をかけ、おわびするとき	申し訳ございません	誠意ある感じ (緑)	45°
お客様にお願いするとき	恐れいりますが	信頼できて確かな感じ(緑)	15°
お客様に対する感謝を表すとき	ありがとうございます	明るい感じ (赤)	45°

### 発声の際のポイントを明確にする

■ 学習活動4のペアで発声し合う活動では、漠然とした指示では、用語によって、トーンや表情を変えることなく、大きな声で発声し、ホスピタリティのない発声になることもあります。

場面を想定し、色をイメージしながら気持ちを込めて発声するよう指示を工夫してみましょう。



#### 新学習指導要領では

### ビジネスの場面に応じたコミュニケーションを重視

- 今回の改訂では、従前の外国人とのコミュニケーションに関する内容は、日本人とのコミュニケーションに関する内容(2)「ビジネスとコミュニケーション」に再編成されました。この内容では、ビジネスに対する心構え、コミュニケーションの基礎、情報の入手と活用の方法を取り扱い、ビジネスの諸活動を円滑に行う能力と態度を育てることを目指しています。
- 本事例では、接客の場面を想定し、場面に応じた言葉の使い方、話の聞き方、話し方、表情など基礎的なコミュニケーションの方法を身に付けることができます。

# 高等学校 看護科 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- 様々な場面で創意工夫して、安全・安楽を図りながら、看護を実施できる。

思考力、表現力の育成

- 科目 基礎看護
- 学年 第2学年
- 単元名 診療と看護
- 本時の目標 身の回りにある日用品を用いた安全で効果的な電法について考察し、発表することができる。
- 学習の流れ (5時間目/全5時間)

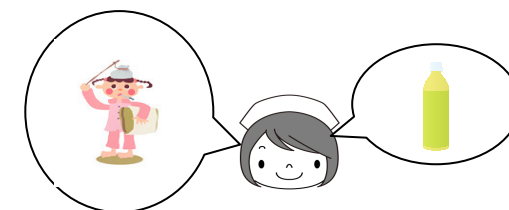
学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 安全で効果的な電法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に作成したワークシートを基に温熱刺激に対する生体の反応や、電法・保温の種類と目的について発表させる。</li> <li>・前時の課題についての取組み状況を確認する。</li> </ul>	
<p>前時の課題 (ワークシート) 提示された事例について</p> <p>①事例に適した電法は何か、その科学的な根拠について記入する。</p> <p>②事例に対して、身の回りにある日用品を工夫して、安全で効果的な電法を考え、記入する。</p>		
2 身の回りにある日用品を工夫した、安全で効果的な電法についてグループ討議する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6グループに分ける。</li> <li>・事例について2つの課題を討議させ、話し合った内容を模造紙にまとめさせる。</li> <li>・異なる意見を大切にすることを伝える。</li> <li>①事例の状況から、適切な電法の種類について考えさせ、判断した理由をグループ内でまとめ記入させる。</li> <li>②適した「身の回りにある日用品を工夫した安全で効果的な電法」について、材質や形態とその特徴から選んだ理由をまとめさせる。</li> <li>・司会、記録、発表、模造紙(プレゼンテーションツール)作成、討議とまとめのタイムキーパーを決める。</li> <li>・発表の留意点を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で効果的な電法について考察し、発表している。〔思考・判断・表現〕(記録,発表,行動観察)</li> </ul>
3 各グループ毎に発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の留意点を確認する。</li> <li>身なり、挨拶、声の大きさと速度、要点を明確に、聞き手の立場に立つ、時間を正確に</li> <li>・1グループ3分で発表させる。</li> </ul>	
4 安全で効果的な電法について再確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループの発表内容に触れながら、安全で効果的な電法について再確認させる。</li> <li>・学んだことを日常生活において実践することが大切であることを再度説明する。</li> </ul>	

言語活動の充実

## 指導のポイント

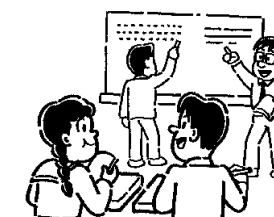
### 生徒の思考過程に沿ったワークシートの工夫

- 科学的な根拠を明らかにすることで、調べ学習の方法を学べます。事実の裏付けを基にして、自信をもって自分の考えをもつことができるようになります。科学的な根拠については、出典を明らかにさせることで、今後の自己学習に役立てます。
- 関心をもって新たな視点で日用品を眺める時間をもてるように課題提示をしています。その際に、他教科・科目と関連させて考える(理科の熱伝導など)ヒントを提示すると良いでしょう。



### 討議により意見の異なる人を説得したり、集団として意見をまとめる

- 自らの考察をさらに深め発展させる、もしくは修正をするために自分の考えを表現する場として小グループを活用します。
- 討議の中から、科学的な根拠を明らかにするための様々な文献を知ることができます。
- 日常生活の中の新たな視点から、様々な発見があることを学べるように、一人一人の意見を大切に、集団としての意見にまとめていきます。
- グループ全員が責任をもって役割を遂行し、それに協力することで達成感を感じられるように時間とルールを明確にします。



### 分かりやすい発表の仕方を工夫する

- プレゼンテーションツールを作成することで、発表の要点を明確化させます。他のグループのものと比較することで、まとめる力が向上します。
- 時間内にルールを守って発表するよう指導することが大切です。
- 他のグループの発表を聞くことで、幅広い知見と情報を得て、活用することができます。

### 新学習指導要領では

**専門性の高い看護判断能力、安全で確実な看護技術、豊かな人間性を身に付けた人材を育成する**

- 今回の改訂では、医療の高度化、患者の高齢化・重症化等に対応し、**専門性の高い看護判断能力、安全管理技術や医療機器等に関する安全で確実な看護技術**を有し、看護倫理・コミュニケーション能力・人権を尊重する態度などの**豊かな人間性を身に付けた人材を育成する**観点から、科目の新設、関連科目の整理再構成を行っています。
- 本事例では、日常生活における体験などの具体的な場面を設定し、**既習の知識を活用して思考するとともに、グループワークや発表を通して豊かな人間性を身に付け、それぞれの場面に応じた適切な方法を創意工夫することができる**ようになります。



# 高等学校 福祉科 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- 対人援助の基本である、介護を必要とする人との信頼関係を形成するためのコミュニケーション技法を習得できる。



思考力、表現力の育成

- 科目 コミュニケーション技術
- 学年 第1学年
- 単元名 コミュニケーションの基本技術
- 本時の目標 「表情の遠近関係」を用いて表情を観察し、その対応を考え表現することができる。
- 学習の流れ (1時間目/全10時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 表情の遠近関係を理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表情研究者 Schlosberg, H の「表情の遠近関係」について、図示して説明する。</li> <li>・笑顔に近い軽蔑や驚きの表情を理解できるように、自分の表情を鏡で観察させる。</li> </ul>	
2 表情を観察する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二人一組になり、事例を通してお互いの表情を観察することを説明する。</li> </ul>	
言語活動の充実 <事例> AがBに話しかける。Bは、3種類の感情を持ちながらAに表情で返す。 介護者A「Bさんは、絵がお上手なですね。」 利用者B「まあうれしい」(喜び) 「なぜ知っているのかしら」(驚き) 「あなたに何がわかるの」(軽蔑)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の表情から3種類の表情が読み取れたか確認させる。</li> <li>・6枚の表情の写真(愛しい)(驚き)(苦しみ)(怒り)(嫌悪)(軽蔑)を見せ、それぞれの表情があらわす感情は何か記録させる。</li> <li>・再度写真を見せ、正答を伝える。</li> <li>・気づきを記録する。</li> <li>・グループ(8人×5)で気づきを発表し、介護者として必要な心構えを話し合う。</li> <li>・発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表情を積極的に読み取り、自らの表情について考察できる。〔思考・判断・表現〕(行動観察、記録、発表)</li> </ul>
3 表情について考察する		
4 本時のまとめと次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の感情表現の察し方、質問の仕方などを提示し、本時の学習目標に対する取組み状況を評価する。</li> <li>・次時まで「身だしなみ」についてワークシートを学習してくることを伝える。</li> </ul>	

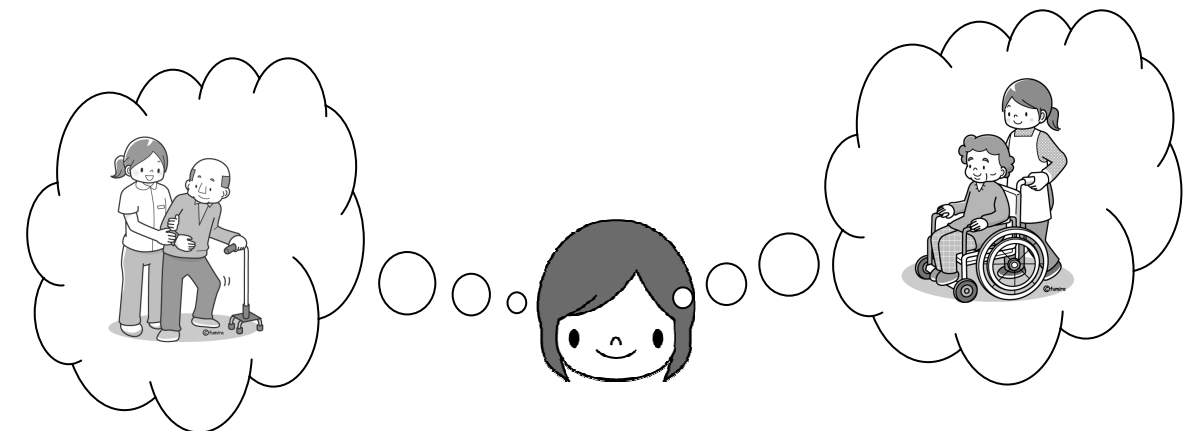
## 指導のポイント

### 「表情」が関係づくりに与える影響に気付かせ、自らの「表情」を意識し工夫させる

- 理論的に裏付けされた「表情の分かりにくさ」に気付かせると同時に、生徒全員に手鏡を持参させて、自らの表情を観察させることにより、自分の表情を意識することができるようになります。
- 他人に表情を観察してもらい、感想を聞くことにより、自分の行動を振り返ることができます。

### 「表情」に表現された利用者の感情を考察することにより、コミュニケーションの基本技術を習得させる

- グループで討議することにより、「表情から感情を察する」ことの難しさを知り、その対処方法について積極的に思考することができるようになります。
- より良い介護を行うための介護者の表情について、考察させることにより、効果的な援助場面をつくりだす工夫を思考し、非言語的コミュニケーションを意図的に用いることにより、信頼関係を築くことに気付くことができます。



### 新学習指導要領では

#### 多様で質の高い福祉サービスを提供できる人材を育成することが求められています

- 今回の改訂では、少子高齢化の急速な進展に伴い、地域における自立生活支援への志向や福祉ニーズへの多様な社会福祉に対する国民意識の変化に対応し、**多様で質の高い福祉サービスを提供できる人材を育成**する観点から、介護福祉士の資格等にも配慮して、科目の新設を含めた再構成、内容の見直しなどの改善を図っています。
- 本事例では、科目「社会福祉援助技術」を名称変更した科目「コミュニケーション技術」のねらいである高齢者や障害者など介護を必要とする人との**信頼関係を形成し活用する能力を育成**することに着目し、非言語的コミュニケーションを通して観察、評価し合い、一人では気付かなかった表情について、その変化を促すことが出来るようになります。

# 高等学校 総合的な学習の時間 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- 発表方法を工夫し、根拠を明らかにして自分の考えを説明することができる。

思考力、判断力、表現力の育成

- 学年 第1学年
- 単元名 「新書」レポート交流
- 本時の目標
  - ・「新書」をレポートの形式でまとめ、発表の仕方を工夫することで、収集した情報をより深く理解することができる。
  - ・「評価表」をもとにしながら、話し合いをすることで、根拠を明らかにしながら自分の考えを説明することができる。
- 学習の流れ（3時間目／全4時間）
 

《前時までの活動内容》夏休み等の長期休業を利用して、学校が指定した新書に関心のある分野から一冊読み、学習活動2に必要な課題1～課題4（課題1 内容の要約、課題2 感想・疑問、課題3 この本のここがおすすめ！、課題4 ぷち〇〇〇〇クイズ）を踏まえた上で、「新書」レポートを完成している。

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 「新書」レポート交流の確認	・「新書」を読んで学んだことを共有できるよう工夫させる。	
2 指定されたグループ内で各自が作成した「新書」レポートの内容を発表する。	・発表時間を考慮した上で、自分の発表のポイントに軽重をつけ、他の人に分かりやすい発表にさせる。 ・ぷち〇〇〇〇クイズについては、この本から得られた知識をもとに難易度の違うクイズを3問（3択または〇×）作る。	・他者の発表から自分の発表の改善点について考え、発表方法を工夫することができる。 〔活動について思考・表現〕（行動観察、発表、レポート・記録用紙の記述）
3 各グループからレポート部門とクイズ部門の代表者を決定する。	・評価表を書きます。個人別・項目別の3段階評価させ、特によい発表、クイズについて、具体的に理由を書かせる。また、全員の評価をグループ内で提示して、グループ内で話し合い代表者を決定させる。	
4 本時の活動を振り返る。	・グループ代表者をどのようにして決定したか、グループごとに発表させる。 ・本時の学習目標に対する取り組み状況の評価する。 ・次時の「新書」レポート発表会&クイズのルール等を伝える。	

言語活動の充実

## 指導のポイント

### 相手を意識した発表方法を工夫させる。

- 学習活動2の新書レポート発表は、「新書」を読んで、何が書いてあったかを相手を意識した上で他の人に分かるようにレポート内容をまとめて発表することが大切です。発表時間が4分の場合、何をどのような順番で発表するかということが重要になってきます。

①内容の要約（1分）、②感想（1分）、③この本のここがおすすめ！（1.5分）、④クイズ(0.5分)の4項目を踏まえて内容を分かりやすく伝えましょう。

工夫

（相手の興味・関心が高いと思われる場合）はじめに、①この本のここがおすすめ！（3.5分）で、内容の要約を含めて、この本で学んだことを説明し、推薦したい部分を強調し、その後、②クイズ(0.5分)を行う。  
（相手の興味・関心が低いと思われる場合）はじめに、①クイズ（2分）で関心を高め、その後、②内容の要約を行い、感想をまとめて発表する。（2分）

### 評価表をもとに話し合いをさせる。

- 「グループ代表を決定する」という話し合いの見通しが持てるように、評価表を活用しましょう。発表するときのポイントだけではなく、グループ代表者の決定方法を発表するときにも役立ちます。

「グループ代表を話し合いで決定しましょう。」

工夫

「評価表をもとにしながら、グループ代表を話し合いで決定しましょう。」

- このような取り組みによって、考えの根拠が明確になるので、代表者を選ぶ話し合い活動が充実します。また、今後、自分が発表するときのポイントも明確になります。

評価項目	レポート作成者
必要な情報が十分に記されている	2・1・0
要約が分かりやすく書かれている	2・1・0
感想・疑問が掘り下げられている	2・1・0
読む人に興味をもたせる工夫がある	2・1・0
クイズで新たな知識が得られた	2・1・0
クイズの出題が工夫されている	2・1・0

### 新学習指導要領では

#### 他者と協同して課題を解決しようとする学習活動を重視

- 今回の改訂で、内容の取扱いについての配慮事項において、「問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること」が示されました。
- 本時の学習活動2の「新書」レポートをグループ内で発表する学習を通して、**根拠を明らかにして自分の考えを説明する**ことができるようになります。また、友だちの発表を聞いたり、自分の発表の仕方を工夫したりすることで**自分の考えを深めたり**、協同的に取り組むことの大切さを実感することができます。



# 高等学校 特別活動 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- 言いたいことを明確にして書く、根拠をもって話すなどの活動を通して、相手に分かりやすく伝えることができる。
- グループ内での話し合いを通して、相手の伝えたいことを的確にとらえたり、自分の意見と比較して、共通点や相違点などを見つけたりするなど、情報を整理し、思考を深めることができる。

思考力、表現力の育成

- 科目 特別活動（ホームルーム活動）
- 学年 第2学年
- 単元名 主体的な進路の選択と将来設計
- 本時の目標 「私の進路について」をテーマとした作文を結論や理由を明確に発表するとともに、気付いたことや感じたことなどについて話し合うことで、自己の進路や将来についての考えを深めることができる。
- 学習の流れ（3時間目／全3時間）
  - ・《前時までの活動内容》各グループの代表者がHR全員の前で作文を発表する。前時は、各グループ内で一人一人が作文を発表し、各グループから代表者を一名選出している。

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 〔評価方法〕
1 本時の目標を確認	・自己の進路や将来について考えを深めさせる。	
2 作文「私の進路について」の発表 ○ 各グループの代表者が順番に発表する。 ○ ワークシートへ記入する。	・伝えたいことを相手に分かりやすく伝えるよう、工夫させる。 ・発表の前後にはクラス全員で拍手する。【A】 ・発表を聞く態度を指導する。【B】 ・自分の考えとの共通点や相違点を見つけながら、発表の良かった点（内容や仕方）を考えさせる。	・聞き手が発表者の意図する事を的確にとらえている。〔思考・表現〕（観察・ワークシート）
3 発表の振り返り（まとめ） ○ グループごとに役割分担を行う。 ○ ワークシートを基に、一人一人が発表する。 ○ グループの意見をまとめる。	・司会、記録、計時係（タイムキーパー）などの役割を決める。【C】 ・結論先行で、結論や理由を明確にして相手に分かりやすく伝える。 ・生徒相互で話し合い、グループとしての意見をまとめる。【D】	・自分の意見を明確にし、かつ、相手の意見を尊重してグループの意見をまとめている。〔思考・表現〕（観察・ワークシート）
4 気づきの発表 ○ 各グループの記録者が、まとめた意見を発表する。	・結論先行で結論や理由を明確にして相手に分かりやすく伝えていく。	
5 本時の振り返り ○ 担任によるまとめ	・担任が発表内容等と関連づけて、担任自らが進路選択に当たって苦労した事や、悩んだ事などを語る。【E】 ・発表を聞く態度を肯定的に評価していく。【F】	

言語活動の充実

## 指導のポイント

### 発表や話し合い活動を充実させるために、生徒指導の三機能を生かす

- 「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的人間関係を育成する」の三つの機能を生かすことにより、発表や話し合いを充実させ、自己指導能力を育成することができます。

#### 発表や話し合いの充実

生徒指導の三機能	指導内容等	自己指導能力の育成
自己決定の場を与える	C 各自、希望する役割に立候補させ、話し合いで決定させる。	自分のためにもなり、人のためにもなることを基準に、相手の意見との共通点や相違点を見つけることができる。
	D お互いの意見を尊重し、意見をまとめさせる。	
自己存在感を与える	A 拍手をすることにより、感謝の気持ちを伝えていくことの大切さを理解させる。	自分自身がかけがいのない存在であることを実感することから、相手を思いやることができる。
	B 発表者の方に顔や体を向けるなど、話を聞く姿勢が相手を大切にすることに繋がることを理解させる。	
共感的人間関係を育成する	E 教師自ら、自己開示を行う。	教師と生徒及び生徒相互の人間のふれあいが深まることから、相手を受容しながら思考を深めることができる。
	F 教師が発表内容や発表を聞く態度等を評価し、生徒に伝える。	

### 自分の考えを明確にするために、ワークシートを活用する

- 次の例に示すようなワークシートを活用することで、自分の考えを明確にして相手に伝えたり、お互いの情報を整理、比較したりすることができます。

#### ★自分の考えを明確にするためのワークシート例

【発表の良かった点について】※結論先行で考えをまとめ、発表すること。

発表者	発表の内容		表現の方法	
	伝えたいこと（結論）	理由等	工夫していること	理由等

#### 新学習指導要領では

### 感想文の作成、発表、話し合いなどの活動の展開を重視

- 今回の改訂では、内容の取り扱いについての配慮事項として、「〔ホームルーム活動〕及び〔生徒会活動〕の指導については、...よりよい生活を築くために集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動や自分たちできまりをつくって守る活動、人間関係を形成する力を養う活動などを充実するよう工夫すること」という文言が加わりました。
- 学習指導要領解説に、「具体的には、人生と生きがい、30年後の私などの題材を設定し、...感想文の作成、発表、話し合いといった活動を展開するよう例示がなされています。本時においては、今回の改訂で各活動・学校行事で扱うべきとして明示された内容のうち、ホームルーム活動「(3) 学業と進路 カ 主体的な進路の選択決定と将来設計」を扱い、感想文を作成し、それを発表するという活動を設定しました。